

ISSN 0289-3827

京都女子大学

食物学会誌

第66号

JOURNAL OF FOOD SCIENCE
KYOTO WOMEN'S UNIVERSITY

(Kyoto Joshi Daigaku Shokumotsu Gakkaishi)

No. 66

京都女子大学食物学会
FOOD SCIENCE SEMINAR
KYOTO WOMEN'S UNIVERSITY

December 2011

食 物 学 会 誌

第 66 号

目 次

研究報文

マウス抗体クラススイッチ過程の速度論に基づく解析
.....宮田 堅司..... 1

転写現象の方程式
.....野々垣智美, 森瀬美由紀, 近藤 美美, 須田 温子,
長尾 香奈, 長谷川千幸, 廣瀬 友紀, 藤井 愛美,
宮田 堅司..... 7

研究ノート

高齢者介護保険施設における介護食提供の現状と取組み
.....樹山 敦子.....11

脱脂米糠抽出物のヒト由来食細胞に対する免疫賦活性の検討
.....宮崎 由子, 阿部 千秋.....17

京都女子大学食物学会誌投稿規定

(平成21年5月1日改訂・実施)

1. 原稿は食物栄養学科および生活科学科食物栄養専攻に関係のある研究論文、調査、総説、自由論叢、研究室だより、学級、卒業生だより、実習記および見学記などとする。原稿には前記区分を明記の上、投稿カードを添付する。
投稿者は本会会員ならびに食物栄養学科および生活科学科食物栄養専攻卒業生とする。
2. 原稿の取捨は、学会長、学科副主任、運営委員長によって構成される編集会議に一任とする。編集会議は原稿の査読を適切な者（学外者を含むことがある）に依頼することができる。採択された論文の著作権は学会に委譲するものとし、さらに学会は電子化の権利を有するものとする。
3. 研究論文は他誌に未発表のものとする。
4. 原稿は報文の場合、刷上がり6頁（400字詰原稿用紙で27枚程度）以内とする。ワープロ使用の時は、A4判用紙に印字する。
原稿用紙4.5枚が約1頁に相当し、凸版図または写真版図共に6×9cm挿入の場合はこのスペースは約500字に相当する。
5. 原稿の書き方は下記の通りとする。
 - (1) 論文の表題の下に著者名を書き、つづいて英文表題とローマ字著者名を記載する。
 - (2) 原稿第1枚の脚注に著者の勤務先あるいは所属機関の公称名および所在地とその英訳名を書く。
 - (3) 研究論文およびノートには英文抄録（250語以内）を付ける。英文抄録は別のA4判用紙に、平易な英文で簡潔・明確に書く。全文をつづけてダブルスペースで印字する。
 - (4) 文章は平かな、当用漢字を用い、現代かなづかいにより、化学用語は文部省学術用語による。外国語音訳にはかたかなを用いる。
 - (5) 本文の区分はポイントシステムにより、大見出し、中見出し、および小見出しを明確にする。なお、小見出し以下の区分はアルファベットによる。

[例] I. 実験
1. 実験方法
1) 試料の調製
A. 試料

 - (6) 句読点およびカッコには1こまを与える。ハイフンは1こまの中に明瞭に書く。新しい行の初めは1こまあける。
 - (7) 一般に通用している物質名、術語などに対しては外国語を用いないこととする。
 - (8) 原則として本文中に元素名、かんたんな化合物名称の代りにその化学記号、化学式を用いない。
 - (9) 数字はすべてアラビア数字を用いる。数量および術語の略字などは次の例による。
m (メートル), cm (センチメートル), m² (平方メートル), m³ (立法メートル), ml (ミリリットル), l (リットル), mg (ミリグラム), g (グラム), kg (キログラム), °C (摂氏度), % (パーセント), pH (水素イオン濃度), b.p. (沸騰点), f.p. (凝固点), m.p. (融点), cal (カロリー), kcal (キロカロリー), h (時間), min (分), s (秒), V (ボルト), kV (キロボルト), A (アンペア), mA (ミリアンペア), W (ワット), hPa (気圧), N (規定度), mol (物質質量)
 - (10) 表、図および写真の番号は表1, 表2, ……., 図1, 図2, ……., 写真1, 写真2, ……., のように表わし、表の説明は表の上を書く。図および写真の説明は、別の用紙にまとめて書く。
 - (11) 図はそのまま縮尺印刷できる様に鮮明に作成する。
 - (12) 図、表および写真は本文中に挿入箇所を明示して、別に添付する。
 - (13) 本文および文献中の雑誌名には____, 雑誌巻数には____の下線をつける。____はイタリック体, ____はゴシック体となる。
 - (14) 本文中の引用文献番号は両カッコをつけて本文と同じ大きさで書く。文献は本文の最後に通し番号順に列記する。
 - (15) 引用文献は著者名、雑誌名(書名)、巻数、頁数、年号の順に書き、(13)の注意の如く、それぞれ下線をつける。
[例] A. Haas, B. Hill: *Biochem. J.*, 29, 986 (1932)
 - (16) 引用文献の略し方は原則として日本化学総覧およびChemical Abstractsの規定による。ただし、食物学会誌を引用するときは“本誌”と略す。
 - (17) 脚注は*, **で示し、各ページごとに記載する。
6. ワープロを使用した原稿には電子データを添付する。
7. 校正は著者が行うことを原則とする。
8. 総説、研究論文、自由論叢については希望者に対し別刷20部を贈呈する。それ以上の希望数に対しては実費を申しうける。希望者は希望数を投稿カードに記入する。

京都女子大学 食物学会誌 第66号 (非売品)

平成24年1月11日 印刷

平成24年1月13日 発行

編集委員代表

編集者 中山玲子

発行所 京都女子大学食物学会
京都市東山区今熊野北日吉町
京都女子大学家政学部内
電話 (531)7145 (〒605-8501)

印刷所 株式会社 北斗プリント社
京都市左京区下鴨高木町38-2
電話 (791)6125 (〒606-8540)
